

る様子。男子のラクロスはクロスの扱いが格闘技に近い。そんな力強い活動が注目される西南学院大学の男子ラクロス部。ラクロスが大好きな松本伸哉君(国際文化学部3年)は副部長を勤めている。「好きな事を学ぶ喜び、「好きな事を学ぶ喜び、なんでもしたらやるのは止めた。ラクロスしているから、学びたいものへの勘が明確になった」と話す。ふたりとも文武両道。ラクロスをすることで、動と静のバランスを覚えたようだ。



松本伸哉さん
(副部長)



西南学院大学の午後の練習風景

DATA

DATA/西南学院大学 創立/男子:平成3年、女子:平成6年 部員/男子:60名、女子:44名 目標/もちろん11月の全日本ラクロス選手権優勝。(過去には男女とも昨年の九州リーグ戦で優勝。) 特徴/文武両道、オンとオフのけじめをつける。

献血でボランティア活動も忘れない

ラクロスの年中行事、献血。

両大学ともにラクロス部は、年一回の献血活動を行なっている。部員たちは、自身も献血をし、身近にいる仲間にも呼び掛ける。「僕のこの献血で誰かが救われるとうれしい。どんな形で役立っているか知りたい」と西南大の松本さん。「ラクロスの武具でバス・電車をはじめ、市民の皆さんに迷惑をかけていることがある。だからそのお返し」と九産大の森川さん。「できたら、社会人になっても続けるつもり」と九産大の中西くん。「比重が低いので、なかなかできないけれど、いま自分ができる最大のボランティア。」と西南大の森永さん。学生でもできる社会貢献。やると充実感があると献血のすばらしさを語ってくれた。



西南学院大学での移動採血バス内



「福岡県赤十字血液センターでは、春・夏・冬の年3回、移動採血バスで大学にお邪魔しています。献血のご協力をお願いします。学生の皆さんたちの熱い気持ち、お待ちしております。」